

実践のまとめ（第6学年 国語科）

新発田市立住吉小学校 教諭 高橋 祐輔

1 研究テーマ

説明的文章における「読む力^(※)」を高める児童の育成 ～学びがつながる単元づくりとスキルアップシートの活用を通して～

(※) 筆者の主張を理解するとともに、表現の工夫や効果を捉え、自分の考えをまとめることができる力

2 研究テーマについて

(1) テーマ設定の意図

小学校学習指導要領国語編では、「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」の育成を目指している。また、高学年の「C 読むこと」の精査・解釈では、「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること」が求められている。藤森（2018）は、これを「読むべき対象をよりよく理解し、味わい、評価するために身につけるべき事柄」の一つと述べていることから、文章と図表を結び付けて読むことは、文章を精査・解釈するための大切な要素だと分かる。

これまでの自分の説明文の指導を振り返ると、教材によって読ませ方に一貫性がなく、「文章と図表を結び付ける」読み方は、その場しのぎの表面的な読み方にとどまっていた。そのため、児童は、「この読み方で読んだら分かった」という読み方の自覚をもつことがないまま学習を進めることが多かった。また、教材文での学習とその後の表現活動とに乖離があり、単元を通して学習意欲を継続させることが困難だった。

そこで本研究では、自分が習得した読み方を自覚させるために、スキルアップシートを用いる。また、児童の学習意欲を継続させるために、単元の開始時に明確なゴール(表現活動)を提示し、そのゴールに迫るための活動を教材文での学習段階から小出しにして入れ込み、活用場面を設定する。

(2) 研究テーマに迫るために

① 「入れ子構造」を用いた習得と活用をつなげる単元構成 **（学習意欲の継続）**

水戸部（2014）は、「導入で単元を貫く言語活動を見通す活動を位置付けても、第2次では、言語活動との関連性が不明確なまま教材文を読み取らせる指導になりがちである」とし、その課題を解決する手立てとして「入れ子構造」が開発された。「入れ子構造」とは、教材文を読み取る第2次の各単位時間に、第3次の表現活動の学習を入れ込む指導過程を指す。こうすることで、2次をただの読み方の習得で終わらせず、3次とのつながりを意識した単元をつくることができると考える。「入れ子構造」は一般的に並行読書と関連付けられることが多いが、本研究では、習得した読み方を使って第3次の表現活動につながる活動を各単位時間内にスモールステップで入れ込んでいく。第2次に毎時間少しずつ活用場面を入れ込むことによって、後述のスキルアップシートを用いた読み方の自覚との相乗効果も期待する。

② スキルアップシートを活用した授業構成 (読み方の自覚)

児童が教材文からどんな読み方を学んだのかを自覚しやすくするためにスキルアップシートを用いる。スキルアップシートとは、読み方(スキル)を具体化し、実際の授業と結び付けて活用できるように作成した学習シートである。シートには、「スキル名」「スキルの説明」「そのスキルから分かった筆者の説明の工夫(副次的スキル)」「振り返り」を書き込めるようにしておき、授業をしながら児童が考え、記入していくようにする。また、このシートを活用場面により生かせるようにレイアウトを工夫することで、前述の「入れ子構造」を用いたスモールステップでの活用場面との相乗効果も期待する。

(3) 研究テーマに関わる評価

- ① 習得した読み方を利用して、日本文化を紹介するパンフレットを書いている児童が80%以上になる。(タブレット端末で児童が作成した制作物)
- ② スキルアップシートや振り返りの記述で筆者の論の進め方(説明の工夫)や図表の活用の仕方に着目した記述がある児童が80%以上になる。(ワークシート・アンケート)

3 単元と指導計画

(1) 単元名

表現の工夫をとらえて読み、それをいかして書こう

「『鳥獣戯画』を読む」「日本文化を発信しよう」(光村図書 国語6年)

(2) 単元(題材)の目標

○読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに役立つことに気づいている。

[知識・技能] (3)オ

○筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。

[思考力、判断力、表現力] B(1)イ

○目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。 [思考力、判断力、表現力] C(1)ウ

○単元のゴール(パンフレット作成)に向けて粘り強く取り組み、学習の見通しをもってパンフレットを作ろうとしている。 [主体的に学習に取り組む態度]

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づいている。(3)オ	・「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。B(1)イ ・「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。C(1)ウ	・文章と図表などを結び付けて必要な情報を読み取ったり、構成を工夫して書き表したりすることに粘り強く取り組み、学習の見通しをもってパンフレットを作ろうとしている。

(4) 単元の指導計画と評価計画（全11時間、本時5／11時間）

次 (時数)	学習内容	学習活動	主な評価規準と方法
1 (1) (2) (3)	<ul style="list-style-type: none"> 鳥獣戯画の絵巻物や高畑勲の作品、授業者が作ったパンフレットなどを見て本単元に興味をもたせ、単元のゴールを設定する。 自分が紹介したい日本文化を決める。 本文を読み、大まかな構造と内容を捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎日本文化をA L Tで紹介するパンフレットを作ろう。→「いきなりは書けない」→教科書から説明の工夫を学ぼう（教科書を読む必要性） ◎自分が紹介したい日本文化を見つけよう。 ◎この文章は「双括型」か「尾括型」か。 	<p>知識・技能 本文を「始め—中—終わり」の3つに分けたり、「双括型」か「尾括型」かの自分の考えを書いたりしている。【ノート】</p>
2 (4) (5) 本時 (6) (7)	<ul style="list-style-type: none"> 課題(絵と段落の配置)に対して、絵と文章を結び付けて考え、筆者の説明の工夫を見つける。→筆者の説明の工夫を使って文章を書く。【入れ子構造】 課題(文の分類)に対して、絵と文章を結び付けて考え、筆者の説明の工夫を見つける。→筆者の説明の工夫を使って文章を書く。【入れ子構造】 論の展開や文末表現の工夫について気づいたことを話し合う。→前時までに自分が書いた文章を修正する。【入れ子構造】 「調べた情報の用い方」を読み、著作権への理解を深める。→自分が調べた文章に出典・引用を載せる。【入れ子構造】 	<ul style="list-style-type: none"> ◎筆者の説明の工夫を見つけよう。 〈課題〉4つのイラストカードはそれぞれどの段落に当てはまるか。 ◎筆者の説明の工夫を見つけよう。 〈課題〉7つの文は、それぞれア・イのどちらに分けられるか。 ◎筆者の説明の工夫は他にもあるだろうか。 ◎著作権について考えよう。 	<p>思考・判断・表現 ・文章と図表を結び付けて課題を解決している。 【ワークシート】 ・筆者の説明の工夫をいかして日本文化を紹介する文章を書いている。【タブレット端末】</p> <p>思考・判断・表現 ・文章と図表を結び付けて課題を解決している。 【ワークシート】 ・筆者の説明の工夫をいかして日本文化を紹介する文章を書いている。【タブレット端末】</p> <p>思考・判断・表現 筆者の説明の工夫をいかして文章を修正している。 【タブレット端末】</p> <p>知識・技能 自分が引用した文章の出典を書いている。 【タブレット端末】</p>
3 (8～ 10) (11)	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて詳しく調べたり、割付を考えたりしながらパンフレットを作成する。→蓄積したスキルアップシートを参照させる。 友達と完成したパンフレットを読み合い、交流し、単元の振り返りを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎学んだことをいかしてパンフレットを完成させよう。(2次で蓄積したスキルアップシートを活用する) ◎お互いのパンフレットを読み合おう。 	<p>主体的態度 学習したことをいかしてパンフレット作成に粘り強く取り組んでいる。【観察・タブレット端末】</p> <p>思考・判断・表現 単元を通して学んだことや友達と交流して感じたことをもとに振り返りを書いている。【ノート】</p>

4 単元（題材）と児童（生徒）

(1) 単元について

本単元は、「『鳥獣戯画』を読む」を表現の工夫を捉えて読み、そこで学んだ表現の工夫を活用して、日本文化を発信するパンフレットを書く複合単元である。絵と文章を対照して、筆者が何に着目し、それをどのように評価しているのか、筆者のものの見方や考え

方、そして論の進め方を捉えて読んでいく。単元のゴールとして「書くこと」を設定することで、児童は読み手としてだけでなく、書き手の立場も意識して読むだろう。その書き手意識が、読み方の自覚や学習意欲の継続につながることを期待する。「書くこと」のテーマである日本文化は、身近であるが故に児童にとっては認識しづらいかもかもしれない。その特色を認識するには、歴史的に受け継がれてきたという時間軸と、世界の中の日本という空間軸が必要であり、「『鳥獣戯画』を読む」は、その双方を得られる教材である。

(2) 児童の実態 (男子15人 女子13人 合計28人)

課題解決に向けて意欲的に取り組む児童が多く、国語の説明文の学習でも、熱心に音読したり、文章の内容を捉えようとしたりする姿が見られる。しかし、内容を捉えるだけで終わってしまい、そこから自分の考えをもつ段階に至っていない児童が多い。1学期に行った「時計の時間と心の時間」では、本文から筆者の主張を読み取り、それに対する自分の考えを書く学習を行ったが、ただ漠然と筆者の主張を捉えるだけで、そこから自分の考えを形成することが困難な児童が多かった。文章の読み方を明確に伝えることができなかった授業者にも反省が残った。また、1次の導入時に単元のゴールを設定し、児童は意欲的に学習を始めたが、2次に入ると「文章を読まされている感」が出てきて、学習意欲の継続に困難さを感じた。そこで、本単元では、自分が習得した読み方を自覚させるために、スキルアップシートを用いる。また、学習意欲を継続させるために、単元のゴールに迫るための活動を2次の段階から活用場面として入れ込む。この2つの手立てから、筆者の表現の工夫や効果を捉え、自分の考えをまとめることができる児童の育成を目指したい。

5 本時の展開 (令和4年10月28日実施)

(1) ねらい

筆者が、絵の描き方や絵巻物について、どんな感じ方や評価をしているのか、絵と文章を結び付けながら読み取り、筆者の説明の工夫を見つけ、自分のパンフレット作成にいかすことができる。

(2) 展開の構想

本時は、本文中の7つの文章を2つに分類するために、絵を見ながら考え、意見を交流させる学習である。①～⑥までの文章を授業者が分類することで、児童はその共通点を考えながら、⑦の文章がどちらに入るのか話し合う。分類するポイントとして、「絵と文章を結び付ける」がある。文章と絵が結べるものはア(説明)で、結べないものはイ(評価)となる。また、絵と文章を対応させて読むことで、筆者の伝えたいことが分かりやすくなるという効果があることも実感させ、読み方の自覚を促したい。そして、説明と評価がどちらもあることで、読者に分かりやすく主張を伝えているという筆者の工夫に気付かせたい。また、前時の活用場面(入れ子構造)で、自分が選んだ日本文化の説明を児童は書いているので、本時の学びをいかして、その説明に自分の評価を加えるという活用場面を入れ込む。このように習得と活用が連続することで、児童の学習意欲を継続させたい。

(3) 展開

時間 (分)	学習活動	教師の働き掛け 予想される児童の反応	□評価 ○支援 ◇留意点
(3)	・音読をする。 ・前時の復習をする。	T: 音読をします。まずは「速さ読み」です。 次に、「ペア読み」をします。 T: 前は、「全体」を説明してから「部分」を説明した方が読み手に分かりやすく伝わると いう筆者の工夫を見つけましたね。	◇テンポよく進める。 ○前時の掲示物を見せる。

<p>(8)</p>	<p>・課題を把握し、個人で考える。</p>	<p>T : 今日も、この文章にかくれている、筆者の説明の工夫をみんなで見つけていきましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>◎筆者の説明の工夫を見つけよう。</p> </div> <p>T : 今から先生が好きな文章を7つみなさんに紹介します。それをある分け方でアとイの2つに分けていきます。</p>	<p>◇ワークシートとスキルアップシートを配付する。</p> <p>◇スキルアップシートにめあてを書かせる。</p>
<p>①秋草の咲き乱れる野で、蛙と兎が相撲をとっている。(P142 L1)→ ア</p> <p>②のびのびと見事な筆運び、その気品。(P142 L5)→ イ</p> <p>③どこか、おかしくて、おもしろい。(P143 L11)→ イ</p> <p>④もんどりうって転がった兎の、背中や右足の線。(P145 L3)→ ア</p> <p>⑤相撲の蛙が兎の耳をかんでいる。(P146 L3)→ ア</p> <p>⑥実にすばらしい。(P146 L10)→ イ</p> <p>⑦『鳥獣戯画』は、だから、国宝であるだけでなく、人類の宝なのだ。(P148 L7)→ ?</p>			
		<p>T : すみません。⑦の文章がどちらに分けられるのか、分からなくなりました。スキルアップシートの読み方を使って、みなさんで考えてくれませんか？</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>課題：⑦の文はアとイのどちらに入りますか？</p> </div> <p>T : まずは、個人で考えてください。</p>	<p>◇センテンスカードを黒板に貼り、2つに分類していく。</p>
<p>(10)</p>	<p>・グループで話し合う。</p>	<p>T : それでは、話合いの形になって、班で話し合ってください。</p> <p>C : 難しいなあ。わからない・・・</p> <p>C : 一文全部抜き出しているからアかな。</p> <p>C : イの方は「見事な」とか「おもしろい」とか「すばらしい」とか、ほめているよね。</p> <p>C : そう考えると⑦も「人類の宝」って言っているからイに入るのかな。</p> <p>C : アの文はどれも教科書の絵と結び付けることができるけど、イの文はどこと結んでいいかわからないね。</p> <p>C : そう考えると、⑦も絵と結び付けられないからイかな。</p>	<p>◇分類した理由も考えさせる。</p> <p>◇理由は1つとは限らないことを予め説明し、理由を多く見つけることに価値をもたせる。</p>
<p>(13)</p>	<p>・全体で共有し、筆者の説明の工夫を捉える。</p>	<p>T : それでは、⑦はどちらに分けられるでしょうか。各班で話し合ったことを発表してください。</p> <p>C : アの文はどれも教科書の絵と結び付けることができるけど、イの文はどこと結んでいいかわかりません。そして、⑦の文も絵と結び付けられないから、イに入ります。</p> <p>T : なるほど。では、確認してみましょう。みなさんも自分のワークシートで絵と文を結んでみてください。</p> <p>C : ⑦の文はイに入ります。理由は、②③⑥の文はどれも「見事な」「おもしろい」「すばらしい」といったほめる言葉が入っていて、⑦にも「人類の宝」というほめる言葉が入っているからです。</p>	<p>◇子どもの発言に合わせて、補助黒板に掲示した文と絵を線で結ぶ。</p> <p>□文章と図表を結び付けて課題を解決している。 【ワークシート】</p>

<p>(11)</p>	<p>・本時のまとめを行う。</p> <p>・筆者の説明の工夫をいかして文章を書く。(活用場面)</p>	<p>T : なるほど。確かにそうですね。□班が発表してくれたほめる言葉を「評価」と言います。反対にアに入る文を「説明」と言います。</p> <p>T : 「『鳥獣戯画』を読む」は、説明と評価がまざった文章になっていますね。では、みなさんは、次の3つの文章の中で、どれが一番分かりやすいと思いますか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>A : 説明だけの文章 B : 評価だけの文章 C : 説明と評価のまざった文</p> </div> <p>C : Cが分かりやすいと思います。 T : どうしてそう感じましたか? C : 説明だけだと、何が言いたいのか分からないし、評価だけだと、何を評価しているのか分からないからです。 C : 両方あるとバランスがいい気がします。 T : 今日の学習をまとめましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>㊦ : 筆者は、説明と評価をどちらも書くことで、読者に文章を分かりやすく伝えている。</p> </div> <p>T : それでは、今日見つけた筆者の説明の工夫を使って、自分の日本文化の紹介文を書き加えてみましょう。 T : 何を書き加えたらいいですか? C : 前は説明だけを書いているので、そこに自分の評価(感想)を入れたらいいと思います。</p>	<p>◇アを「説明」、イを「評価」と言うことをおさえる。 ◇ペアでどれが分かりやすいか話し合わせる。</p> <p>◇教師が作成したABCの文章を提示する。</p> <p>◇Cを選んだ理由を問い返し、価値を考えさせる。</p> <p>□筆者の説明の工夫をいかして日本文化を紹介する文章を書いている。【タブレット端末】 ◇時間があれば、ペアで書いた文章を交流する。</p>
-------------	--	--	---

(4) 評価

筆者の説明の工夫をいかして日本文化を紹介する文章を書いている。

【タブレット端末】

6 実践を振り返って

(1) 授業の実際(指導の実際)

① 教材と出会い、学習のゴールを設定する(1次)

まず、いきなり教材を読むのではなく、『鳥獣戯画』の絵巻物のレプリカを見せたり、筆者である高畑勲の映画作品を見せたりして、児童の興味を高めた。その上で、担任が作成した日本文化のパンフレットを提示し、このような「日本文化を発信するパンフレットを作ろう」と学習のゴールを設定した。児童は、インターネットで意欲的に日本文化を調べ、どの文化を紹介しようか考えていた。しかし、パンフレットを書き出してみると、児童からは「いきなり書いてって言われても、どう書いたら良いか分からない」という反応があり、「それじゃあ、教材文から筆者の工夫を見つけていこう」と担任が提案し、教材文を読む活動が始まった。



② 1 単位時間内に習得と活用を入れ込む（2次）

2次では、教材文を読んでいくのだが、学級の実態として、ただの教材文の読み取りでは、学習意欲が継続できないという課題があった。そこで、1 単位時間内に習得と活用を入れ込む「入れ子構造」を2次に取り入れた。

4時では、桂(2013)の『教材に「しかけ」をつくる国語授業10の方法』から「配置」を用いて、4つのイラストカードが、③～⑥段落のどの文章と一致するのかを話し合う活動を行った。また、スキルアップシートを用いて「文と絵図を結び付けて読む」スキルを意識させた。児童は、「蛙が兎を投げ飛ばした」や「蛙の口から線が出ている」などの文に注目し、その文に当てはまるイラストカードを選んでいった。その後、③④段落と⑤⑥段落の違いを児童に問うた。児童からは、「③④段落は、全員(兎も蛙も)が出ているけれど、⑤⑥段落は兎や蛙がアップで出ていて、息とか顔などくわしいことを言っている。」という発言があった。そこから、③④段落では「全体の説明」があり、⑤⑥段落では「部分の説明」がされていることをおさえ、この順番を逆にしてもいいか問うた。すると児童からは、「いきなり部分の方から説明すると、その部分は全体のどこのことを言っているのか分からなくなるからおかしい。」という発言があり全員がその意見に賛成した。そして、「全体を説明してから部分を説明した方が読み手に分かりやすく伝わる」という筆者の説明の工夫(副次的スキル)に気付くことができた。その後、授業の終末に自分のパンフレットを修正した。自分のパンフレットの画像の全体を説明してから、「さらに細かく見てみると」と画像のより詳細な説明を書き加える児童が多くいた。(図1・2)

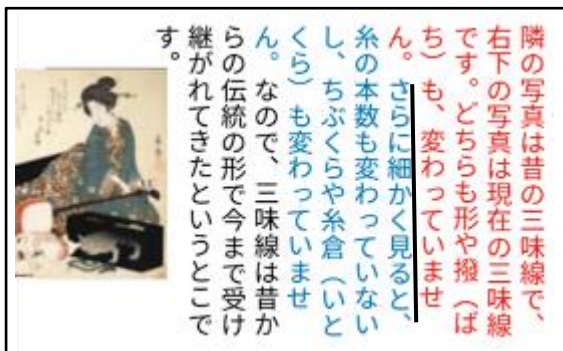


図1



図2

5時(本時)では、「分類」を用いて、以下の7つの文章をアとイの2つに分類する活動を行った。

分類する7つの文

①秋草の咲き乱れる野で、蛙と兎が相撲をとっている。(P142 L1)→ ア

②のびのびと見事な筆運び、その気品。(P142 L5)→ イ

③どこか、おかしくて、おもしろい。(P143 L11)→ イ

④もんどりうって転がった兎の、背中や右足の線。(P145 L3)→ ア

⑤相撲の蛙が兎の耳をかんでいる。(P146 L3)→ ア

⑥実にすばらしい。(P146 L10)→ イ

⑦『鳥獣戯画』は、だから、国宝であるだけでなく、人類の宝なのだ。(P148 L7)→ ?

①～⑥までの文章を授業者が分類することで、児童はその共通点を考えながら、⑦の文章がどちらに入るのか話し合った。分類するポイントとして、前時と同様にスキルアップシートを用いて「文と絵図を結び付けて読む」スキルを意識させた。児童は、「絵のことを説明しているのがアで、筆者の感想がイ」というように話し合っていた。その後、児童の発表を受けて、アを「説明」、イを「評価」ということを教えた上で、「説

明だけの文章」と「評価だけの文章」と「説明と評価が混ざった文章」の3種類の文章を提示し、どれが分かりやすいか問うた。すると児童からは、「説明と評価が混ざった文章の方が分かりやすい」という反応があり、「説明と評価をどちらも書くことで読み手に分かりやすく伝えている」という筆者の説明の工夫(副次的スキル)に気付くことができた。その後、授業の終末に自分のパンフレットを修正した。自分が選んだ文化の説明の後に、自分の評価を書き加えている児童が多くいた。(図3・4)



図3

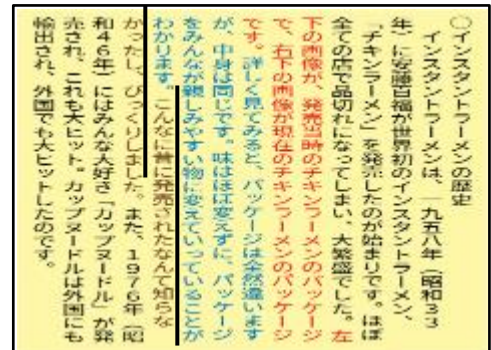


図4

このように、毎時間スキルを使って教材を読み、そこから分かった筆者の説明の工夫を使って、授業の終末に自分のパンフレットを修正する流れで2次を進めた。

③ 完成したパンフレットを友達と交流する (3次)

2次で毎時間修正を重ねて完成したパンフレットを、3次で友達と読み合う交流活動を行った。友達に向けて書いたコメント(表1)には、「その文化の初めて知ったこと」や「その文化の歴史に対する感想」などの他に、2次で習得した説明の工夫に関連したコメントも多くあった。パンフレットを読む観点として、学習したことが定着していると言える。

2次で習得した説明の工夫に関連した児童のコメント

- 風鈴の全体のことをおおまかに説明してから、細かい効果などのことを説明していて、深く知ることができました。
- 説明と評価をバランス良く書いていて、1回読んだだけで分かって、読みやすかったです。
- しっかり自分が感じる評価を入れていてすごい！問いかけも入れていてすごい！
- 文章の始めや終わりに「～か？」や「～でしょうか？」など親しみやすい言葉を書いていて読みやすかったです。

(2) 研究テーマに関わって

① 「入れ子構造」を用いた習得と活用をつなげる単元構成 (学習意欲の継続)

研究テーマに関わる評価

① 習得した読み方を活用して、日本文化を紹介するパンフレットを書いている児童が80%以上になる。(タブレット端末で児童が作成した制作物)

→23人/27人 (85.2%)

2次で習得した説明の工夫は「〈1〉全体を説明してから部分を説明する」「〈2〉説明と評価を入れる」「〈3〉読者に問いかけるような文章を入れる」の3つである。この3つ全てを書き加えてパンフレットを作成できた児童は85.2%だった。(図5)

「〈1〉全体を説明してから部分を説明する」が特に難しく、ここで4人が修正できていなかった。学習の順序を後にすることや修正の時間にペア活動を入れるなどの手立てが必要だと感じた。しかし、〈1〉以外ほぼ全員が修正できており、1単位時間内に習得したことを活用して自分の文章を修正することは、児童の思考の流れにも合っていて有効な手立てだったと言える。



図5 児童が作成したパンフレット

② スキルアップシートを活用した授業構成 (読み方の自覚)

研究テーマに関わる評価

② スキルアップシートや振り返りの記述で筆者の論の進め方(説明の工夫)や図表の活用の仕方に着目した記述がある児童が80%以上になる。(ワークシート・アンケート)

→24人/27人 (88.9%)

単元に入る前の事前アンケートで、「あなたが『文章と図表を結び付けて読む』という読み方について、感じていることやよさを書いてください」という質問をした。結果は、「文章と図表を結び付けて読む」ことのよさを具体的に記述している児童が8人(29.6%)、「分かりやすくなる」といった具体性に欠ける記述が9人、記述なしが10人だった。しかし、単元終了後に行ったアンケートでは、「文章と図表を結び付けて読む」ことのよさを具体的に記述している児童が24人(88.9%) (表2)、「分かりやすくなる」といった具体性に欠ける記述が3人、記述なしが0人と数値に向上が見られた。また、(1)授業の実際(指導の実際)③で述べたように、パンフレットを交流する際にも、2次で習得した説明の工夫に関連したコメントが多くあった。スキルアップシートを用いた学習を通して、読み方の自覚が高まったと言える。

単元後の児童の振り返りの記述

- 文章だけでも分からないことはないですが、今はどのような場面について説明しているのか分かりづらいし、読者によっては、考え方が食いちがってしまうかもしれません。でも絵や図があれば、絵なら場面が分かり、グラフや表なら数が見えるようになるので、情報を簡単に整理することができますと思います。
- 絵や図にある細かい要素に気付くことができました。あまり見ないときは、大まかなことにしか目がいかなかったです。
- 文章だけで読み取るより、詳しく理解することができたと思います。文とその文を表している「絵図」を線で結んだり、丸で囲ったりして対応させながら読むと、内容がより分かりやすくなりました。

(3) 今後の課題

① スキルアップシートの扱いについて

本実践では、読み方の自覚を児童にもたせるために、あらかじめ読み方が明示されたスキルアップシートを用いた。前述の通り一定の効果も見られたが、「文章と図表を結び付けて読む」ことだけが万能の手段ではない。5時(本時)の授業で言えば、7つの文を「比較」することで分類に成功している班も見られた。「文章と図表を結び付けて読む」読み方はあくまでも1つの方法であるという意識の中で、児童が自分たちでスキルを発見したり、スキルを選択できたりする場面を今後検討していきたい。

② 1単位時間内に習得と活用を入れ込むパッケージについて

本実践の新規性は、1単位時間内に習得したことをその時間内に即活用するというものだった。この流れによって、児童は教材から学んだ説明の工夫をすぐに自分のパンフレットの修正に活かすことができた。しかし、このパッケージで授業を行うと、活動のテンポがどうしても速くなり、低位の児童によってはついてこられない可能性がある。学習内容によっては、習得と活用を2時間に分けるなど、軽重を付けることも必要であると感じた。

<引用・参考文献>

文部科学省『小学校学習指導要領解説国語編』. 東洋館出版社. 2017

藤森 裕治『学力観を問い直す 国語科の資質・能力と見方・考え方』. 明治図書. 2018. pp82-83.

佐藤 佐敏『国語科授業を変えるアクティブ・リーディング 〈読みの方略〉の獲得と〈物語の法則〉の発見』. 明治図書. 2017. pp34-43.

桂 聖『教材に「しかけ」をつくる国語授業10の方法』. 東洋館出版社. 2013

水戸部 修治『実践国語研究325号』寄稿文より. 明治図書. 2014